

社会とともに

真に豊かな社会づくりへの貢献

社会貢献活動に関する考え方

日立化成グループは、日立化成工業企業行動基準（P4参照）に定める「企業が社会の一員であることを深く認識し、公正かつ透明な企業行動に徹するとともに、環境との調和、積極的な社会貢献活動を通じ、良識ある市民として真に豊かな社会の実現に尽力する」との基本理念に基づき、地域支援活動や文化・スポーツ支援活動、社会福祉活動など、国内外を問わずさまざまな社会貢献活動を行っています。

地域支援活動

●地域のイベント・施設への支援

お祭りやキャンペーンなど地域で実施されるイベントへの協賛や、公園や博物館、地域センターなどへの支援を行っています。

●事業所主催イベントの開催

日立化成グループの各事業所では、毎年地域の方々と親睦を深めるさまざまなイベントを開催しています。



2005年9月に日立化成下館事業所で地域の方々にも多くご来場いただき開催した「だて祭り」

●クリーンキャンペーンの実施

事業所周辺はもちろん、海岸や国道沿いなど地域の環境を守るため、従業員によるクリーンキャンペーンを展開しています。



日立化成オートモーティブプロダクツ（株）で定期的を実施しているクリーンキャンペーン。2005年6月には各部門の代表者70名が参加

文化・スポーツ支援活動

●学術・文化振興の支援

大学、研究機関などへの学術支援、国内外からのインターンシップ受け入れのほか、新国立劇場、九州交響楽団などへの文化支援を行っています。

また日立化成下館事業所では、毎年2月ごろ結城養護学校の生徒を実習生として受け入れています。

●スポーツ振興の支援

スポーツ大会やチームへの支援を通じて地域や社会への貢献に努めています。また、青少年を対象としたスポーツ教室の開催などを通じて、次世代を担う子供たちの健全な育成に努めています。



2006年4月に日立化成山崎事業所女子卓球部が開催した「卓球教室」には茨城県日立市内の中学生100名以上が参加



2005年10月に日立化成が寄付金を贈呈したアイススレッジホッケー（下肢障害があってもアイスホッケー競技ができるように競技規定の一部を変更したスポーツ）日本代表チーム

社会福祉・災害支援活動

国内外において、恵まれない子供へのチャリティーや福祉施設への寄付、ボランティアなどの社会福祉活動を行っています。また、2005年10月に発生したパキスタン北部地震災害の被災地に義援金を寄付するなど、災害支援活動を実施しています。

財団への寄付を通じた社会貢献活動

日立グループには国内外に6つの財団があり、それぞれ社会貢献活動に取り組んでいます。日立化成グループでは、このうち4つの財団への寄付を通じて、社会貢献活動を行っている個人や企業、団体などの活動を支援しています。

日立化成グループが支援している財団

（財）日立みらい財団

青少年の犯罪・非行の予防や健全育成を支援する事業および矯正施設における各種矯正教育や福祉を支援する事業を行っています。

（財）小平記念日立教育振興財団

家庭教育および学校教育の振興事業、社会的功労者の顕彰事業を行っています。

（財）日立環境財団

環境問題に関する調査・研究および環境保全活動の普及・奨励事業を行っています。

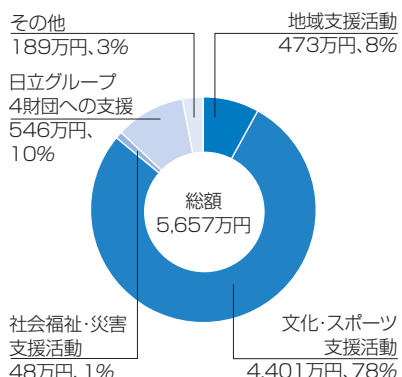
日立ファウンデーション（米国）

経済的・社会的に疎外されている米国の人々の生活向上を目的とするプロジェクトの支援や、北米の日立グループ各社と連携したマッチングファンダプログラム、高校生の優れた社会貢献活動に対する表彰などを行っています。

各財団の活動はホームページで詳しく紹介しています。

URL http://www.hitachi-chem.co.jp/japanese/csr/phila_foundation.html

日立化成の寄付金活動内訳（2005年度）



奨学支援・学術交流

日立化成グループでは国内外で大学への奨学金の支給や学術交流などを行っています。

Hitachi Chemical Europe GmbH (ドイツ)では、2003年から英国オックスフォード大学リナカレッジで環境マネジメントを学ぶ留学生を対象とした奨学金支給制度「Hitachi Chemical Europe Environmental Change and Management Scholarship」を継続しています。この制度が環境マネジメントのスペシャリストを育成するための一助となり、奨学生が卒業後、自国の環境保全および社会経済の発展に広く貢献していくことを期待しています。

また、日立化成では1980年代から中国の上海交通大学*と技術交流を始め、1989年には「学術交流および友好協力関係に関する協定書」に調印し、委託研究などを進めてきました。さらに、2003年には「日立化成-上海交通大学研究開発センター」を設立し、交流を一層深めています。

※ 上海交通大学: 1896年に設立された中国で最も伝統がある大学の一つ。重点大学にも指定されており、前国家主席の江沢民氏などを輩出している

地域とのコミュニケーション

日立化成グループでは、地域の方々へ事業内容や環境安全への取り組みをご説明し、ご意見を伺うため、事業所説明会や工場見学会を実施しています。

2006年1月、日立化成五所宮事業所では、小学5年生と教員、保護者を招いての事業所見学会を開催しました。自動車関連部品の製造現場を見学したあとの意見交換会では、生産能力や効率向上に関する質問などが多数寄せられました。

2006年3月には、日立化成下館事業所で地域の皆さまにご参加いただき、「下館事業所環境報告書2005」を使用した事業所説明会を実施しました。燃料転換や河川への影響など環境に関することから、従業員への支援制度まで、幅広いご意見をいただきました。

また、2005年度、日立化成下館事業所、五所宮事業所、新神戸電機(株)、日立粉末冶金(株)、日立エーアイシー(株)でCSR・環境に関する報告書を発行しました。



日立化成五所宮事業所の事業所見学会



日立化成下館事業所の事業所説明会

Voices

麻薬撲滅プロジェクトに参加しています。



Hitachi Chemical Automotive Products (Thailand) Co., Ltd. (タイ)

当社は、麻薬撲滅を目指すタイの国家プロジェクト「To Be Number One」に参加し、従業員とその家族に麻薬の危険性への認識を深めてもらうための活動を展開しています。

タイでは依存性薬物の乱用が社会

問題となっており、政府機関から民間企業に至るまで、さまざまな組織・団体が撲滅活動に取り組んでいます。「To Be Number One」は、取り組みレベルの高い団体のみが参加を認められるプロジェクトで、当社が所在するラヨン県からは当社を含め5団体が選ばれています。

こうした国家プロジェクトへの参加など、会社全体を挙げての地道な活動が評価され、2005年11月には、タイの労働社会福祉省から「White Factory: Level 3[※]」の認定を受けました。また、12月には若者への啓発を目的として開催された「To Be Number One Exhibition」に招待され、活動状況を政府関係者、教育関係者、地域関係者に紹介するとともに、同プロジェクトを主宰

するウボンラット王女に謁見する栄誉を得ました。

当社の麻薬撲滅活動が健康的で豊かな社会づくりの一助となるよう、今後も活動を継続していきます。

※ White Factory: Level 3: 労働者の精神保健・麻薬乱用問題を解決するためにタイ労働社会福祉省が推進している「White Factory Projects」に参加し、全国規模で活動している団体がレベル3として認定される。認定にあたっては定期的な教育の実施、組織的な活動の実践、年次計画の有無などの項目を審査される



ウボンラット王女への謁見の様子